

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070500614		
法人名	株式会社 SOYOKAZE		
事業所名	太田グループホームそよ風 1F キンモクセイ		
所在地	群馬県太田市飯田町814-1		
自己評価作成日	2024年10月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.sykz.co.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	2024年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

駅前繁華街という立地ではあるが、近所には大きな公園があり1年通して季節感を感じて頂ける様、散歩等を行っている。地域交流室の設置により、地域に密着した施設作りに取り組んでいる。太田市のクリーン作戦に少数のお客様に参加して頂き、地域の方との交流を図っている。1階のキンモクセイは介助度高い方が多く、個々の食事面、水分量、体調面の情報共有を行い、日頃から訪問看護や主治医、専門医との情報共有を密に行う事で徹底した体調管理ができ、病状の安定が図れている。ご家族様にもお伝えする事で信頼関係も築けている。一人ひとりがその人らしく安心して過ごして頂ける様に、相手の気持ちに寄り添い、快適な生活環境を作るよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年5月に職員全員でつくった理念のもと、職員・利用者が互いに認め合い、助け合い、楽しいチーム作りのため、笑顔で接し、笑顔を引き出す支援を行っている。管理者は月2回法人幹部に実際のケアについて報告し、定期的に幹部が職員面接を行い意識の向上を図り統一したケアが提供できるよう取り組み、事業所内においては職員間で介護技術を教えあうなど意見交換をしながら、利用者支援を提供する関係作りを図っている。事業所の取り組みや課題を話し合う運営推進会議では、家族・利用者を中心に区長、民生委員、市職員等の参加があり、意見交換により出された提案を実現するなどサービス向上に活かしている。食事においては、厨房の専門職員が利用者の目の前で天ぷらを揚げたり、ゆでたてのうどんを提供したりなど、目や匂いで楽しめる食事の提供を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070500614		
法人名	株式会社 SOYOKAZE		
事業所名	太田グループホームそよ風 2F ハナミズキ		
所在地	群馬県太田市飯田町814-1		
自己評価作成日	2024年10月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.syzk.co.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	2024年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

駅前繁華街という立地ではあるが、近所には大きな公園があり1年通して季節感を感じて頂ける様、散歩等を行っている。地域交流室の設置により、地域に密着した施設作りに取り組んでいる。太田市のクリーン作戦に少数のお客様に参加して頂き、地域の方との交流を図っている。2階のハナミズキは歩行訓練、脳トレプリント、園芸、個々にあった活動を行っています。、日頃から訪問看護や主治医、専門医との情報共有を密に行う事で徹底した体調管理ができ、病状の安定が図れている。ご家族様にもお伝えする事で信頼関係も築けている。一人ひとりがその人らしく安心して過ごして頂ける様に、相手の気持ちに寄り添い、快適な生活環境を作るよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

キンモクセイ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念は毎日、社長メールに記載されており、社員全員が目を通している。太田GHの理念は朝・夕の申し送り時に唱和することで理念を意識して実践に繋げている。	職員全員でつくった理念「認め合い助け合い、楽しいチームを作ろ！」に基づき、職員同士が助け合いマンツーマンのケアの提供において利用者一人ひとりに寄り添い、利用者・家族・職員の生活者全体で支える支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の民生委員さんや区長さんとの交流、クリーン作戦等のご近所さんとの交流を行っている。消防訓練でのご近所さんとの交流を図っていききたい。	散歩時には、近隣の公園で地域の方と交流する機会がある。運営推進会議では、防災訓練で地域住民の協力を依頼するなど、関わりにむけた働きかけが行われている。地域交流室を整備しているが、感染リスクの観点から活用にはいっていない。	今後地域交流室の活用などにより、地域との関わりが広がることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症予防もあり、地域の人々に向けて活かされていない。今後は、地域交流室を活用して介護相談やイベント等を行っていききたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4月より2ヶ月に1回対面で開催を行っている。市役所の介護サービス課の方や区長、民生委員、ご家族様代表、ご入居者様代表にご参加頂き、ご意見を頂けておりますので、対応を行っています。	令和6年6月より対面での運営推進会議を開催し、意見交換が活発にできるよう議長が配慮しながら進行している。利用者も参加する事で、家族も参加しやすくなっている。そうしたなか、家族からの要望で月の行事をわかるよう取り組むなど、意見を実現につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護サービス課、地域包括、保健センター等の連携を図り、必要に応じて報告、相談を行っている。	コロナ禍では、市に情報発信を速やかに行い、対応についての相談をして、蔓延する事が防げた。運営推進会議では、他事業所の情報を聞く機会にもなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化・虐待防止委員会を3ヶ月に1度行っている。毎月の会議で研修や不適切ケアの分析を行い、会社を上げて身体拘束、虐待防止に取り組んでいる。	拘束をしないケアの取り組みとともに、月1回以上会議を開催している。スピーチロックなど、言葉による抑制などについても研修を行い、職員が統一した支援ができるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケアに関する取り組みとして月2回提出書類があり、面談を行っている。虐待が起きないように研修や勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見人制度をご利用されている方はいない。以前にご入居されていた方が成年後見人制度をご利用されていたので、学ぶ機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様の契約は時間をかけ、1つ1つ疑問が無いか確認しながら説明させて頂き、納得された上で署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様やご家族様とのコミュニケーションは日頃から大切にしており、面会時やお電話にてご意見やご要望を頂き、早急の対応を行っている。	面会時、電話、LINE、運営推進会議で、意見や要望を聞ける体制を整えている。そうしたなか、面会制限の中でも、家族と話し合い状況にあわせて居室で面会する機会を作ったり、外出も行ったり柔軟に対応している。また、要望をうけて歩行訓練を行うなど、反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝夕の申し送りや全体会議などで職員の意見交換、提案を聞くことができ、迅速な対応を心掛けている。	年齢差のある職員が互いに助け合い、働きやすい環境を作ることを目指し取り組んでいる。また、管理者は業務のなかで職員との信頼関係を築き、必要な物品購入や勤務体制など直接職員からの要望に応えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回の個人面談を行い、個人目標の達成度等のヒヤリングし、職場環境の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成に力を入れており、入社時研修～キャリアアップ研修等あり、参加出来る機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会は毎月開催されて意見交換や情報収集や研修を行っている。北関東エリアの勉強会もあり、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様とご家族様からの聞き取り調査を丁寧に行い、心配事やご希望等を聞き取り調査を行い、職員と情報共有し安心して暮らせる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込み時や契約時にご家族様の心配事やお困りごとやご要望を聞き取り調査を行い、密に連絡を取り合い、関係づくりに心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様から情報収集を行い、必要としている支援にあったサービスが受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様の意思を尊重したケアに心掛け、出来る事はご本人にして頂き、出来ない事は一緒に行う様に心掛けている。温かな雰囲気作りにも努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者様との面会交流やビデオ通話、月に1度、写真や様子をお手紙でお知らせしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者様の友人や知人との面会交流やご家族様とご自宅への外出ができる様に支援していきます。	市内在住の職員が地域の様子を話すことも、馴染みの地域で暮らすための大切な支援と捉えている。その他、関係施設のショートステイ利用の友人と交流したり、家族の協力を得て馴染みの美容室の継続利用をしたりして、途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様の席の配慮やコミュニケーションが円滑に図れる様に、職員が介入して支援していきます。1F・2Fでの合同イベントやお誕生日会を行い、交流が図る場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても必要に応じて相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を聞き取り、意向に沿えるように努めている。	職員は利用者に共感したり、表情を見ながら話したりすることで、思いや意向を把握し、思いに添って支援ができるようにしている。職員が聞き止めたことは、ケアカルテに記録して共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や今までの生活環境を把握して、ご入居者様やご家族様のご希望に添えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカルテに一人ひとりの1日の過ごし方を細かく記録を入力している事で、職員間での情報共有は行えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日朝・夕の申し送りや日々の様子をケアカルテでの記録、ご本人様やご家族様からご意見を聞きながら、その時の状況に応じた介護計画書を作成している。	生活歴を中心にアセスメントシートを活用し、利用者の意向に添ってケアプランが作成されている。サービス内容に添って日々のケア記録やモニタリング記録が入力され、担当者会議にてプラン変更を速やかに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かくケアカルテに入力する事で毎日のモニタリングが行えている。気づいた事等は申し送りノートや介護日誌に書き込み、職員間での共有しながら実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりにあったサービスの提供を心掛け、体調不良の通院や内服薬依頼、受け取り等の個々の希望に沿ったサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のクリーン作戦(春、秋)参加している近所の公園で地域の方達と交流は図れている。今後は地域の行事にも参加して行く予定。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を築き、相談や報告を行う事で定期往診・夜間・緊急時24時間対応して頂けている。	週1回の訪問看護と月1回の訪問診療で健康を支え、24時間対応で緊急時にも対応できる体制を整えている。入居前のかかりつけ医に継続して受診する場合は、家族の協力を得ている。そうした場合には、利用者の普段の様子や体調などの情報を専用シートやメモにして、家族に提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護サービスみなみと契約しており、週1回訪問にて入居者様の健康管理を行っている。相談、助言等24時間対応にて入居者様が適切な受診、看護を受けられるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者様の入院時は安心して治療に専念して頂ける様に、ご家族様や病院関係者様と密に情報交換し、早期退院できるよう関係づくりに取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人様様、ご家族様を含めて、重度化や週末期について説明し、主治医より看取り期との診断があった時には再度ご家族様と協議し、方針を共有していく。	食事が取れなくなったり、医療的ケアが必要になったりした場合には、指針に基づいて医師・家族等と話し合い、今後の方針を決めている。緊急の看取りを想定して、急変時のフローを作成しており、職員にはターミナルケアに向けた研修、教育を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、感染症に対する処置等学び訓練している。急変時のフローも事務所に掲示されている。定期的な研修や勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練にて入居者様の避難方法や消火訓練は行っている。運営推進会議で地域の方にも協力体制依頼を行っている。	地域の協力は区長より了解を得ているので、見守り等の担当を決め、訓練を行っている。水害想定訓練も行っている。備蓄を確保して、緊急時は近隣の方の避難場所としての活用も視野に入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様の個々の人格を尊重し、一人ひとりの性格を把握しプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。	利用者一人ひとりの気持ちに合った支援を行う事が、尊厳を守る事と捉えて支援を行っている。また、利用者が全員女性で、同性介助等羞恥心に配慮した対応に努めている。接遇研修を行い、声かけに対しても気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様が思いや希望を発言できるように、日頃からコミュニケーションを密にとり、自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様一人ひとりの体調や心地を把握し、その日どう過ごしたいのか、ご本人様のご希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好む服装やお化粧道具等をご家族様にご用意して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を行い、メニューの希望を取り入れたり、手作りおやつを行い、ご入居者様に手伝いをして頂き楽しんで頂いている。	厨房専門の職員が利用者からリクエストを聞き、メニューに取り入れてたのしみの機会を作っている。利用者は、材料の下ごしらえやテーブル拭き、下膳などの手伝いを行っている。2階のベランダではミニトマトなど季節の野菜を栽培し食卓に出して、食への関心につなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量もケアカルテに記録、情報共有し1日を通じて必要摂取量に満たない方へは、声掛け支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じて、一部介助やお声掛けを行っている。ご自分で出来ない方は食事摂取が介助にて口腔内の清潔保持に努めている。毎週歯科医の訪問診療もあり、口腔内清潔保持が行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者様の排泄パターンを把握し、個々の能力に応じた排泄介助を行う事で自立にむけた支援を行っている。	いつまでもトイレで排泄したいという利用者の思いを尊重し、トイレで排泄できるため、排泄のサインを見逃さず、失敗のないようトイレ誘導している。朝昼夕の体操などを行い身体機能維持を図り、場所がわかるように表示して、自分でトイレに行けるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた便秘予防と対応を行っている。軽体操支援や食物繊維の多い食べ物の摂取や水分量のチェック、必要に応じて主治医に相談にて内服薬の処方。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご入居者様本位で入浴のお声掛けを行い、ご希望の入浴剤を選んで頂き、入浴支援を行っている。	毎回一人ずつ湯を入れ替え、清潔に気持ちよく入浴できるようにしている。利用者が好きな入浴剤を選び、香りや色でもたのしめるようにしている。重度の利用者は安全の為2人介助で行うが、基本1対1での入浴で、おしゃべりを楽しめる機会にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や十分な睡眠がとれる様に、衣類や室温調整を行い、安心して眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者様一人ひとりの服薬情報はPC・iPatで確認でき、毎日の状態変化は申し送り報告、共有している。訪問薬剤師が週に1回服薬支援して下さっている。服薬支援システムを導入し誤嚥事故防止にもなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様の趣味活動で気分転換を図っている。お手伝いして下さる方にはありがとうと感謝の気持ちを伝える事で信頼関係が築けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様、のご協力にてご入居者様の行きたい場所等外出行っている。近くの公園や5月には妻沼のバラ園に外出した。	交通量が多いため、安全に注意しながら近隣を散歩している。その他、家族と一緒に住んでいた自宅に外出するなど、機会をつくっている。外出が困難な方には、1階や2階のベランダを活用して、外気に触れることで気分転換や五感の刺激となるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居様が欲しい物や希望を聞いて購入代行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや、ビデオ通話でのやり取りをいつでもビデオ通話出来る様に支援している。携帯電話もご自分でかけられない方は職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアでご入居様がテレビを見たり、音楽鑑賞をしソファーでくつろげるよう努めている。季節の花等を飾り季節を感じて頂ける様に工夫をしている。	朝・昼・夕の体操前にボードに書いて、日付の確認をして時の見当識への配慮を行っている。また、季節毎に職員と一緒に作ったタペストリーを飾り、季節感を演出している。気持ちよく過ごせるよう、人間関係などに配慮して座席の配置を決めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくり過ごせるように腰掛けやテーブル、ソファーを配慮し自由に心地よく過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていた馴染みのある家具、ご主人の位牌等持ち込み安心出来る居室作りに努めている。	居室の入り口には表札がつけられ、自分で居室に行けるよう配慮している。空調を整え、趣味で作っていた手作りの花や家族写真を飾るなど、個々に居心地の良い環境作りに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居様の安全、安心に心掛け調理のお手伝いやシーツ交換、居室清掃等は職員と一緒にいき、自立した生活が送れるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

ハナミズキ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念は毎日、社長メールに記載されており、社員全員が目を通していている。太田GHの理念は朝・夕の申し送り時に唱和することで理念を意識して実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の民生委員さんや区長さんとの交流、クリーン作戦等のご近所さんとの交流を行っている。消防訓練でのご近所さんとの交流を図っていききたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症予防もあり、地域の人々に向けて活かされていない。今後は、地域交流室を活用して介護相談やイベント等を行っていききたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4月より2ヶ月に1回対面で開催を行っている。市役所の介護サービス課の方や区長、民生委員、ご家族様代表、ご入居者様代表にご参加頂き、ご意見を頂けておりますので、対応を行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護サービス課、地域包括、保健センター等の連携を図り、必要に応じて報告、相談を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化・虐待防止委員会を3ヶ月に1度行っている。毎月の会議で研修や不適切ケアの分析を行い、会社を上げて身体拘束、虐待防止に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケアに関する取り組みとして月2回提出書類があり、面談を行っている。虐待が起きないように研修や勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見人制度をご利用されている方はいない。以前にご入居されていた方が成年後見人制度をご利用されていたので、学ぶ機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様の契約は時間をかけ、1つ1つ疑問が無いか確認しながら説明させて頂き、納得された上で署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様やご家族様とのコミュニケーションは日頃から大切にしており、面会時やお電話にてご意見やご要望を頂き、早急の対応を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝夕の申し送りや全体会議などで職員の意見交換、提案を聞くことができ、迅速な対応を心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回の個人面談を行い、個人目標の達成度等のヒヤリングし、職場環境の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成に力を入れており、入社時研修～キャリアアップ研修等あり、参加出来る機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会は毎月開催されて意見交換や情報収集や研修を行っている。北関東エリアの勉強会もあり、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様とご家族様からの聞き取り調査を丁寧に行い、心配事やご希望等を聞き取り調査を行い、職員と情報共有し安心して暮らせる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込み時や契約時にご家族様の心配事やお困りごとやご要望を聞き取り調査を行い、密に連絡を取り合い、関係づくりに心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様から情報収集を行い、必要としている支援にあったサービスが受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様の意思を尊重したケアに心掛け、出来る事はご本人にして頂き、出来ない事は一緒に行う様に心掛けている。温かな雰囲気作りにも努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者様との面会交流やビデオ通話、月に1度、写真や様子をお手紙でお知らせしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者様の友人や知人との面会交流やご家族様とご自宅への外出ができる様に支援していきます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様の席の配慮やコミュニケーションが円滑に図れる様に、職員が介入して支援していきます。1F・2Fでの合同イベントやお誕生日会を行い、交流が図る場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても必要に応じて相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を聞き取り、意向に沿えるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や今までの生活環境を把握して、ご入居者様やご家族様のご希望に添えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカルテに一人ひとりの1日の過ごし方を細かく記録を入力している事で、職員間での情報共有は行えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日朝・夕の申し送りや日々の様子をケアカルテでの記録、ご本人様やご家族様からご意見を聞きながら、その時の状況に応じた介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かくケアカルテに入力する事で毎日のモニタリングが行えている。気づいた事等は申し送りノートや介護日誌に書き込み、職員間での共有しながら実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりにあったサービスの提供を心掛け、体調不良の通院や内服薬依頼、受け取り等の個々の希望に沿ったサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のクリーン作戦(春、秋)参加している近所の公園で地域の方達と交流は図れている。今後は地域の行事にも参加して行く予定。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を築き、相談や報告を行う事で定期往診・夜間・緊急時24時間対応して頂けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護サービスみなみと契約しており、週1回訪問にて入居者様の健康管理を行っている。相談、助言等24時間対応にて入居者様が適切な受診、看護を受けられるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者様の入院時は安心して治療に専念して頂ける様に、ご家族様や病院関係者様と密に情報交換し、早期退院できるよう関係づくりに取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人様様、ご家族様を含めて、重度化や週末期について説明し、主治医より看取り期との診断があった時には再度ご家族様と協議し、方針を共有していく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、感染症に対する処置等学び訓練している。急変時のフローも事務所に掲示されている。定期的な研修や勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練にて入居者様の避難方法や消火訓練は行っている。運営推進会議で地域の方にも協力体制依頼を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様の個々の人格を尊重し、一人ひとりの性格を把握しプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様が思いや希望を発言できるように、日頃からコミュニケーションを密にとり、自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様一人ひとりの体調や心地を把握し、その日どう過ごしたいのか、ご本人様のご希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好む服装やお化粧品等をご家族様にご用意して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を行い、メニューの希望を取り入れたり、手作りおやつを行い、ご入居者様に手伝いをして頂き楽しんで頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量もケアカルテに記録、情報共有し1日を通じて必要摂取量に満たない方へは、声掛け支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じて、一部介助やお声掛けを行っている。ご自分で出来ない方は食事摂取が介助にて口腔内の清潔保持に努めている。毎週歯科医の訪問診療もあり、口腔内清潔保持が行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者様の排泄パターンを把握し、個々の能力に応じた排泄介助を行う事で自立にむけた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた便秘予防と対応を行っている。軽体操支援や食物繊維の多い食べ物の摂取や水分量のチェック、必要に応じて主治医に相談にて内服薬の処方。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご入居者様本位で入浴のお声掛けを行い、ご希望の入浴剤を選んで頂き、入浴支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や十分な睡眠がとれる様に、衣類や室温調整を行い、安心して眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者様一人ひとりの服薬情報はPC・iPatで確認でき、毎日の状態変化は申し送り報告、共有している。訪問薬剤師が週に1回服薬支援して下さっている。服薬支援システムを導入し誤嚥事故防止にもなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様の趣味活動で気分転換を図っている。お手伝いして下さる方にはありがとうございますと感謝の気持ちを伝える事で信頼関係が築けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様、のご協力にてご入居者様の行きたい場所等外出行っている。近くの公園や5月には妻沼のバラ園に外出した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居様が欲しい物や希望を聞いて購入代行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや、ビデオ通話でのやり取りをいつでもビデオ通話出来る様に支援している。携帯電話もご自分でかけられない方は職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアでご入居様がテレビを見たり、音楽鑑賞をしソファーでくつろげるよう努めている。季節の花等を飾り季節を感じて頂ける様に工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくり過ごせるように腰掛けやテーブル、ソファーを配慮し自由に心地よく過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていた馴染みのある家具、ご主人の位牌等持ち込み安心出来る居室作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居様の安全、安心に心掛け調理のお手伝いやシーツ交換、居室清掃等は職員と一緒にいき、自立した生活が送れるよう支援している。		